がん研究会　情報公開文書

単施設研究用

IRB番号「2023-GB-149」

研究課題名「表在型食道扁平上皮癌に対するアルゴンプラズマ凝固療法の治療成績」

１．研究の対象

2005年1月～2023年10月に当院で表在型食道扁平上皮癌に対してアルゴンプラズマ凝固療法および内視鏡的粘膜下層剥離術を受けられた方

２．研究の目的・方法

目的：cStage 0（T1a）の表在型食道扁平上皮癌（Esophageal squamous cell carcinoma: ESCC）に対して、内視鏡的粘膜下層剥離術（Endoscopic Submucosal Dissection: ESD）が多く行われています。一方、ESCCの異時性再発は年率2.2～9.0%と高いことが報告されており、治療後の瘢痕上または瘢痕近傍に再発することもしばしば見受けられます。しかし、瘢痕上または瘢痕近傍のESCCに対するESDは治療難易度や穿孔などの合併症への懸念から、cT1a-EP/LPMの病変に対してはアルゴンプラズマ凝固（Argon plasma coagulation: APC）療法が検討されます。APC療法はイオン化したアルゴンガスによって高周波電流を組織に流し、組織の凝固と焼灼を引き起こす高周波熱凝固法です。ESCCに対するAPC療法の有用性は示唆されていますが、局所再発率は2.5～20%と比較的高率です。しかし、いずれの報告も症例数が少なく、再発率に差があります。また瘢痕近傍及び瘢痕上のESCCに対するAPCとESDを比較した報告は既報にはありません。今回、瘢痕上または瘢痕近傍のESCCに対して行ったAPC療法とESDの短期および長期治療成績を比較検討し、APCの意義を明らかにすることを目的としました。
方法：本研究は、研究参加病院に保管されている対象患者さんの診療情報(診療録、血液検査所見、内視鏡画像・所見記録、手術記録、病理所見(プレパラートも含む))を収集し行われます。対象の患者さんに負担、リスクあるいは利益は生じません。

３．研究期間

承認日　～　2026年12月31日

４．研究に用いる試料・情報の種類

本研究に用いる下記の試料・情報につきましては、倫理審査員会の承認を受けた研究計画書に従い、個人が特定されないように適切に匿名化処理を行った上で取り扱っています。
情報：病歴、内視鏡治療や手術の治療歴、副作用等の発生状況等
試料：血液、内視鏡治療で摘出した組織等

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人　がん研究会有明病院
〒135-8550東京都江東区有明三丁目8番31号
研究責任者　消化器内科　医員　山本 浩之
連絡先：電話番号03-3520-0111(代表)　FAX番号03-3520-0141